様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年３月３１日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007～2010
課題番号：19720169
研究課題名（和文）　長登銅山跡出土木簡を用いた古代官営工房運営システムの解明

研究課題名（英文）　Research on management system of ancient national factory in Japan using wooden tablets excavated from Naganobori copper mine ruins

研究代表者　竹内　亮（TAKEUCHI RYO）
奈良女子大学・全学共通・助教

研究者番号：10403320

研究分野：日本史
科研費の分科・細目：古代史
キーワード：日本史、古代、官営工房、木簡、労役

１．研究計画の概要
本研究の目的は、8 世紀の官営銅生産遺跡である長登銅山跡より出土した木簡群を主な素材として、その正確な釈文を作成し、かつ古代長門国に存在した官営銅生産工房の運営システムの一端を具体的に明らかにすることにある。本研究では長登銅山跡出土の銅関係木簡について、詳細に現物調査を行うことにより、未読文字を可能な限り釈読し、記載内容を確定することにつとめる。また、これらの木簡が銅生産工房においていかなる機能を持って使用されたかを知るために、①飛鳥池遺跡出土木簡、②正倉院文書、③長屋王家木簡を比較対象史料として取り扱い、古代官営工房における製品生産と労働力編成との相互有機的関連を明らかにする。

２．研究の進捗状況
(1)2007 年度は、長登銅山跡出土木簡に関する先行研究を批判的に検討し、公表されている釈文に基づいて木簡群全体の性格に関する再検討を行った。また、比較対象史料として正倉院文書を取り上げることとし、研究環境を整えるために正倉院文書続々修写真版の約半数を購入し、その整理と内容の検討を行った。関連する研究成果として、春日離宮付属の造酒官司と考えられる春日酒殿について、離宮推定地から出土した木簡を用いて検討を加え、古代官営工房の存在形態の一端を明らかにした。
(2)2008 年度は、瓦の生産システムについて考察し、古代官営工房に関する比較検討を行った。河内国の鳥坂寺跡から出土した文字瓦について新たな釈読案を見いだし、その瓦が知識の寄進によるものであること、知識がサトを単位として編成されていることなどを明らかにした。その結果、従来は自発的な信仰集団と捉えられてきた知識について、律令行政単位を基礎とする労働力編成の一手段である可能性を指摘し、官営工房における労働力編成の多様性の一端を明らかにすることができた。また、正倉院文書続々修写真版の残り半数を購入し、整理と検討を行った。
(3)2009 年度は、長登銅山跡への現地出張を行って木簡の実物観察および釈文の検討を行い、その調査成果を元に論文を１編執筆した。この論文では、古代長登銅山における労働力編成の法制的位置づけについて、労働力編成が雇役制によって行われていたことを明らかにした。また、雇役制が年単位の国家予算編成を前提として国家が計画的に労働力の配分を行うための制度であることに着目し、銅生産に関わる労働力の投入を年単位で計画的に行うことにより、銭貨の発行量を国家が自由に調整することを目的として、雇役制が採銅事業に導入されたのではないかと推定した。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
長登銅山跡での現地調査および木簡実物調査は、自治体合併に伴う現地機関の体制変更により 2007・2008 年度には行うことができず、2009 年度に実施したが、出張実施に先立って既存の研究成果や史料の検討によって研究を進めるための時間が十分にあったため、出張後に迅速に研究成果論文を執筆・公表することができた（2010 年 2 月刊行）。また、比較対象史料のうち、正倉院文書写真版については 2008 年度までに購入および整

理を完了した。その他の史料についても内容検討が進んでおり、関係する論文も数編執筆・公表することができた。

４．今後の研究の推進方策
木簡所蔵機関である美祢市教育委員会への出張を追加して行い、現地において出土木簡の調査を行なう。既存の釈読記録、発掘調査時の記録と木簡現物とを照合し、かつ現状の墨書文字残存状況などをチェックし、これまでの調査結果もふまえて最終的な釈読案を固める。また、これまで長登銅山跡および周辺の現地踏査を行い、主に古代銅山稼働期の製錬作業現場と事務管理施設の現地比定、古道の調査による銅の積み出しルートの探索並行して行ってきたが、そうした成果をふまえて長門国採銅所の実態に関する復元案をまとめる。さらに、昨年度まで行ってきた正倉院文書、飛鳥池遺跡出土木簡、長屋王家木簡と長登銅山跡出土木簡群との比較検討成果を古代官営工房論としてまとめる。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
①竹内亮、「古代官営採銅事業と雇役制―長登銅山跡出土の庸米荷札木簡をめぐって」、『律令国家史論集』、査読無、１、2010、351-369

②竹内亮、「智識寺小考」、『奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム報告集』、査読無、Vol.24(古代都市とその思想)、2009、34-46

③竹内亮、「五十戸と知識寺院―鳥坂寺跡出土篦書瓦の分析から」、『古代文化』、査読有、60-4、2009、120-134

④竹内亮、「春日寺考」、『シリーズ歩く大和』、査読無、１（古代中世史の探究）、2007、142-164

〔学会発表〕（計１件）
①竹内亮、「鳥坂寺出土篦書瓦の釈読―川内国飛鳥評の「五十戸」史料」、史学会、2008 年 11 月 9 日、東京大学本郷キャンパス

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕